

G-CLIP FLOORING 施工説明書

1. 概要

- ・無垢材の性質上伸縮を防ぐために開梱した状態で最低 1 週間放置し現場の環境(湿度)に馴染ませてください。
- ・基礎のコンクリートや根太、下地の合板は十分に乾燥していなければなりません。
- ・コンクリートは手で触ってみて乾いているか、根太、合板は乾燥材を使用しているかを確認してください。
 - * 床下の換気、乾燥が十分でない場合、施工後に暴れ・床鳴り等が発生する恐れがありますので床下の通風は十分に行ってください。
- ・天然木のため、貼り始める前に仮並べをし、色や柄のバランスをとり施工してください。

2. 床下地について

より良い施工のためには床下地の準備は非常に大切です。

床下地に荒面や不陸がありますと本製品施工後、床鳴りの原因となります。

A. 木質下地の場合

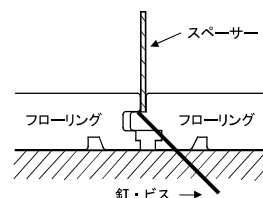
- ・木質下地の場合は少なくとも床下に十分な通風スペースが確保されており、また床下も適切な防湿フィルムで覆われていなければいけません。
- ・床下地が滑らかでない場合は、不陸調整シート[※]を床下地の上に敷いてください。
※ 弊社製品「テプレックス」をお奨めします。

B. コンクリート床下地の場合（クリップ施工をお勧めします）

- ・コンクリート床下地は十分に乾燥し、平滑で異物等が無い状態でなければなりません。また床下も適切な防湿フィルムで覆われていなければいけません。
- ・新しいコンクリートスラブの場合、完全に乾燥させ(少なくとも6週間以上)養生をしてください。本製品の施工は必ずコンクリート床下地の含水率が8%以下であることを確認してから行ってください。
- ・寒冷地、冬期に施工をする際は現場を暖めても下地まで暖まりきらない場合があります。その場合は合板を入れる等下地温度環境の影響を最小限にするようにしてください。
- ・床下地が滑らかでない場合は、不陸調整シート[※]を床下地の上に敷いてください。
※ 弊社製品「テプレックス」をお奨めします。

3. 施工について

- ・実を強く叩き込みすぎると膨張時に反りが生じる場合がありますので、「つく」（名刺が1枚程度はさみこむ）程度とし、部分的に隙間が生じても叩き込まずそのまま貼り上げてください。
- ・施工は糊釘併用で行い、下貼りを通して根太上に打ち固定してください。接着剤は床鳴りやきしみを防止する強力な弾力系のアクリルまたは、ウレタン系木質床用をご使用下さい。
- * 木工用ボンド（酢酸ビニル樹脂エマルジョン系）は、床鳴りの原因になりますので絶対に使用しないでください。



【クリップ施工の場合について】

G-CLIP FLOORINGは「置き床」としても施工出来ます。その場合、アルミ製の専用小型クリップを使用します。

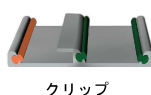
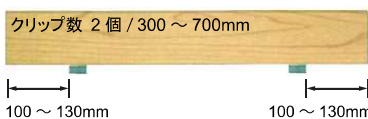
このクリップには、シリコンゴムが付いており伸縮する床材の隙間を調節します。

※こちらの製品にはクリップは付属されておりません。別途、お買い求めください。

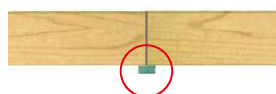
■ クリップの取付け間隔

クリップの取付けはフローリングの端から100~130mmの位置より始めてください。

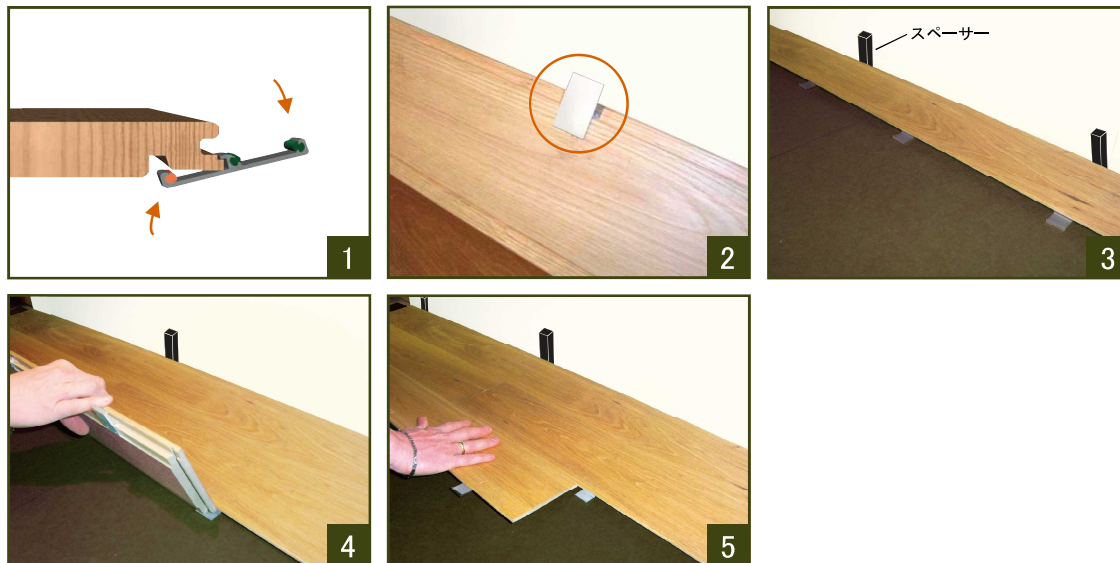
固定に必要なクリップ数は、長さ700mmのフローリングで2個、700mm以上の長さの場合は必ず3~4個のクリップを使用してください。



重要
短辺の接続部分にもクリップを取り付けて下さい。



■ 施工手順（クリップ施工の場合）



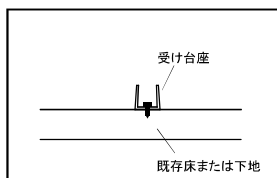
- ① ②. クリップの緑のシリコン部分が上向きになるようフローリングに取り付け、オレンジのシリコン部分は裏の溝にはめ込みます。
- ③. 壁面から**15mm**のスペースを設け、クリップが自分の側に来るよう最初の列を並べます。
（この時、壁面との間にスペーサーをはさむとスペース取りが楽にできます）
- ④. 次の列の実(オス)を最初の列の実(メス)の45度の角度で強く押しあてます。
- ⑤. そのまま強く下ろして、かみ合わせます。

■ 壁面の納まり

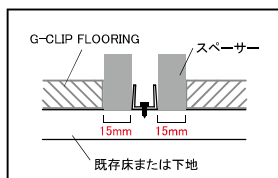
- ・壁面は**15mm**のスペースを設け、密着せず巾木で隠してください。
（この時、壁面との間にスペーサーをはさむとスペース取りが楽にできます）

専用床見切り材使用の場合

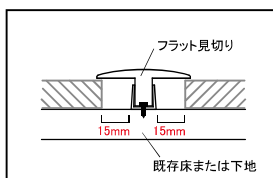
■ フラット見切り



- ①見切りを取り付けるセンターの位置を確認し、受け台座をビスで取り付けます。

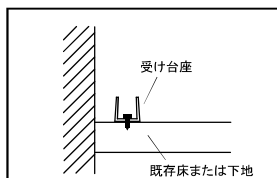


- ②フロアの端部は受け台座より15mmのスペースを設けフロアを施工します。その際、スペーサーを使用するとスペース取りが楽にできます。

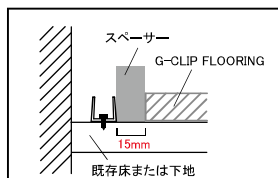


- ③スペーサーを外し、見切りカバーを上からかぶせてください。

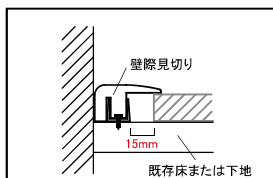
■ 壁際見切り



- ①見切りを取り付けるセンターの位置を確認し、受け台座をビスで取り付けます。

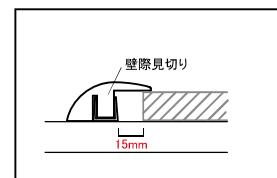


- ②フロアの端部は受け台座より15mmのスペースを設けフロアを施工します。その際、スペーサーを使用するとスペース取りが楽にできます。



- ③スペーサーを外し、見切りカバーを上からかぶせてください。

■ 段差見切り



- ※壁際見切り同様に施工してください。

4. 注意事項

- ・無垢フローリングの表面は、紫外線に直接当たる箇所は色が褪せてきますので、できるだけ直射日光は避けてください。
- ・雨漏り、水こぼしは、染みの原因になりますので、速やかに拭き取ってください。
- ・机や椅子の脚にはフェルトを貼ってご使用ください。
キャスター付の椅子の場合は、カーペット等を部分敷きしてください。
- ・温風ヒーター・ストーブ等の熱が直接当たるような使い方は避けてください。
- ・フローリング上にホットカーペットを敷く場合は、直接フローリング上に敷かないでください。
熱がこもり、フローリングの変形の原因となる恐れがあります。